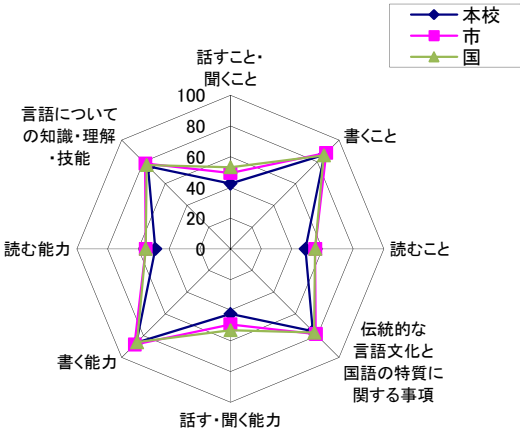


宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

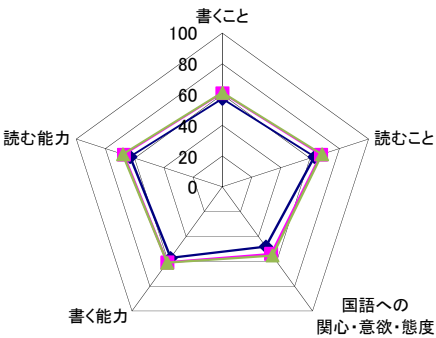
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	42.4	49.3	53.0
	書くこと	86.4	88.2	86.0
	読むこと	48.9	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.8	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	42.4	49.3	53.0
	書く能力	86.4	88.2	86.0
	読む能力	48.9	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	75.8	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	57.3	60.9	61.1
	読むこと	63.1	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	48.1	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	57.3	60.9	61.1
	読む能力	63.1	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「国語の勉強は好きですか」や「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて高い。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」と肯定的に回答している児童の割合では、全国平均をやや下回っている。
- 「読書は好きですか」の質問では、肯定的回答が全国や県を下回っている。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●聞き方の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を10.6ポイント下回っており、話の内容に対する聞き方を工夫することに課題が見られる。	・話し合いでは、話の内容に対する聞き方を意識できるように指導する。特に、自分の立場や話し合いの観点を明確にしたうえで自分の意見を述べたり、自分の意見と比べながら集中して相手の意見を聞いたりすることを意識して行う。
書くこと	○国語Aでは、説明の文章の書き方の工夫として、適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。 ○国語Bにおいては、新聞の割り付けとして適切なものを選択したり、見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択したりする設問でも全国の平均正答率を上回っている。 ●国語Bにおけるインタビューの様子の内容をまとめて書くことなど目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。	・目的や意図に応じて、内容を整理しながら決められた文字数で書くなどの条件に合わせて書く活動に慣れるよう機会を増やす。
読むこと	○国語Bにおいて、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することは、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●国語Aでは、新聞のコラムを読み、表現の工夫を捉えることや、登場人物の相互関係を捉えることは、全国の平均正答率を下回っている。また、国語Bでは目的に応じ、中心となる語や文を捉える設問でも全国の平均正答率を下回った。	・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることや文脈をとらえ、登場人物の相互関係を理解することに課題が見られるので、物語や説明文を扱う学習では、話題の中心(主題)は何か、書き手はどのように考え、何を伝えたいかなどについて捉えられるようにする。 ・児童が様々な作品や文章に触れることができるように読書環境を整備する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aにおいては文を構成する主語と述語との照応関係を捉える設問では、全国の平均正答率を上回り、よくできている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字の読み書きについては、全国の平均正答率と同程度以上であり、よくできている。習熟を図るために練習を充実させてきた成果と考えられる。 ●文の中の主語を捉える設問では、全国の平均正答率を18.3ポイント下回っていることが課題である。	・既習の漢字の読み書きについては、小テストや50問テストを活用し、反復練習をして定着を図る。 ・文中における主語を捉えることを理解させるために、単語の類別と文中での働きについて意図的に取り上げ、知識の定着を図る。